

奄美野生生物保護センター
季刊ニュースレター



Vol.9 No.1 (秋号)
通巻34号

発行・編集

奄美自然体験活動推進協議会

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝551

奄美野生生物保護センター

TEL: 0997-55-8620 FAX: 0997-55-8621

E-mail: amami_rabbit@nifty.com

奄美の風だより



サキシマフユウ

朝晩の気温がぐっと下がり、毛布を押し入れから引きずり出してきました。サキシマフユウもあちこちで咲き、センター職員が山から持って帰ってきたシマサルナシを見ると、秋になったんだなあと感じます。

秋は実りの季節。果実は山からの素敵な贈りものです。実りの代表のドングリですが、奄美ではイタジイやマテバシイなどの椎の実が昔は重要な食料だったようで、お菓子やお酒、お味噌を作ったりご飯と一緒に炊いて食べていたそうです。今でも炒って食べますよね。椎の実以外

にも、先ほど述べたシマサルナシやムベも素敵な贈り物。とても美味しいです。

色々な実がなっている秋の山を散策するのはとても楽しいです。美味しい果実はないかと探し、見つければ実を頬張りながら散策する。山で採れる果実はとくに美味しく感じます。また、自分で見つけて採るという動作が楽しくてしょうがありません。

果実を採ることは私にとって「楽しみ」ですが、山で食料などを調達し山に依存していた時代、山から贈られる物は恵みであり、感謝の気持ちを持って採るものだったのだろうと思います。

食欲と楽しみをくれる秋の散策。昔の人々が心に持っていた忘れてはいけない山への感謝の気持ちを気づかせてくれます。

みなさんも秋の散策で、今では忘れがちな山への感謝の気持ちを思い出してみませんか？

(吉田)



シマサルナシ



ムベ



イタジイ

職員による野生の生きもの情報

■ 奄美大島のマンガース

奄美群島に住んでいる方は、マンガースという動物の名前をよく聞くのではないのでしょうか。奄美大島では、2005 年以来本格的な体制での防除事業が進められており、ニュースなどで大きく取り上げられています。それでは、マンガースとはいったいどのような動物なのでしょうか？ 何故そこまで問題視されているのでしょうか？ 今回は、意外と知られていない奄美のマンガースの実態について迫りたいと思います。

<マンガースの基礎知識> マンガースとは、食肉目マンガース科に属する動物の総称で、アジアやアフリカを中心に30種類程がいるとされています。一言でマンガースといっても、たくさんの種類に分かれています。大きさも大小様々で、体長が20cm 程のものから60cm を超える種もいます。奄美にいるマンガースは、インドや東南アジアなどに生息するジャワマンガースという種類です。



<世界のマンガース問題> 奄美大島にもいるジャワマンガース。実は、世界中で大きな問題となっています。

もともとは、主にサトウキビ畑に繁殖するネズミ退治のために各地に放獣されたそうなのですが、現地の在来生物を捕食し、その土地の生態系に悪影響を与えていることが明らかとなったのです。

このように、人の手でもたらされた生物によって引き起こされる諸問題を、外来生物問題と呼びます。

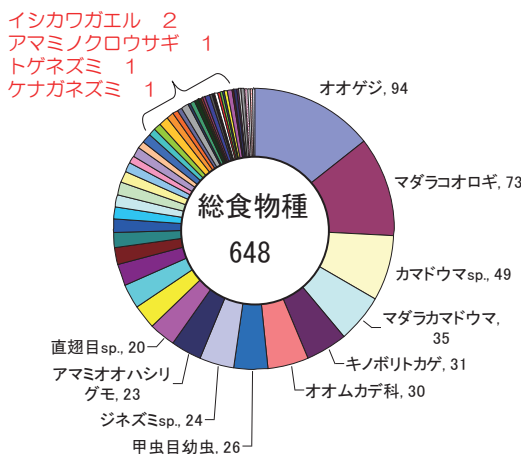
現在、ハワイ諸島をはじめ、世界各地でマンガースの防除活動が行われています。

<奄美大島でのマンガース> そんなジャワマンガースが、奄美大島に連れてこられたのは1979年。ハブ対策のために、約30頭が名瀬で放獣されたそうです。しかし、ハブに対する効果は期待されたものではなく、さらに農作物や奄美の在来生物に対する被害が報告されていきました。それから、分布範囲を広げながら個体数を増加させ、最も多い時期で約1万頭が生息していたと推測されています。現在では、環境省が実施する防除作業の中で、捕獲作業を行っている「奄美マンガースバスターズ」の活躍により、個体数は大幅に減少したと考えられていますが、分布域の縮小までには至っていません。今後、更なる努力が期待されます。

<マンガースの影響>

マンガースが、何故ここまで世界各地で問題視されているのか……。その理由として、「生態系への悪影響」が挙げられます。では、具体的にはどのようなことなのでしょう？

筒わな捕獲個体（121個体）から出現した食物種



巨（未発表データから許可を得て掲載）

この図を見て、アマミノクロウサギやイシカワガエルといった希少種はあまり出てきていないから、マングースの影響は少ないんじゃないの？と、思った人もいるのではないのでしょうか。しかし、それは間違いです。この結果は、121頭のマングースが、捕獲される数日以内に食べたものを表したものです。では、未だ森林内にいる数千頭のマングースが、1年間に食べる量は？巨氏の推定によると、マングースが2千頭生息していると仮定した場合、1年間で1万5千頭のアマミノクロウサギ、2万4千匹のイシカワガエルが捕食されているのだそうです。あくまでも計算上の捕食数ですが、生息数の少ない生物に甚大な影響を与えている事は確かです。

また、マングースの多く生息している場所と、まだ定着していない場所では、その他の生物の種類や数に、大きな差があるとも言われています。それは、例えばマングースがカエルを食べてしまったことにより、カエルをエサにしていたヘビも姿を消す。逆に、カエルに食べられていた昆虫の数が増えるといったことです。もちろん、こういった生物間の関係性はもっと複雑ですし、マングースは多種類の生物を捕食しているので、将来、生態系がどのように変化してしまうかは想像が付きません。そして、一度変化してしまった生態系の復元には、非常に長い時間がかかります。「生態系への悪影響」とは、マングースの捕食によってその土地本来の生態系が乱されてしまうことを指すのです。

<外来生物問題に対して>

奄美大島の貴重な生態系を乱してしまうマングース。しかしその責任は、それらを持ち込んだ私たち人間にあります。マングースなどのすでに発生している問題を早期に解決することはもちろんですが、新たな外来生物問題を発生させないために何ができるのでしょうか？

それは、危険な外来生物をよく知ること、そして外来生物被害予防3原則の「入れない、捨てない、拡げない！！」を意識することです。ペットなど、私たちの身近な所にも外来生物はいます。まずはそれらを知ることから始めてみてください。それが外来生物問題を解決し、奄美の自然を守る一歩となるはずです。

（渡邊）

奄美大島生きもの情報(寄せられた情報の一部)

場所が非公開のもの



キバナノセッコク

日 時: 08.7.4 11:55
 状 況: 溪流の上に張り出し
 大木の幹に着いていた。



リュウキュウエビネ

日 時: 08.8.25 17:00
 状 況: オナガエビネとツルランの雑
 種。



ガラスヒバ

日 時: 08.8.22 10:30
 発見場所: 大和村
 状 況: 幼蛇が浅い水場にいた、
 オットンガエルのオタマジャクシを
 捕らえた。



アカショウビン

日 時: 08.7.26 0:00
 発見場所: 住用町
 状 況: 繁殖期も終わりに近
 づき幼鳥が見られるようになった。



シロハラクイナ

日 時: 08.8.9 13:00
 発見場所: 奄美市
 状 況: 路上で2羽がお互いの足をか
 らめてバタバタしていた。オス同士のか
 ンカだったのか?



スナホリガニ

日 時: 08.7.4 13:30
 発見場所: 大和村ヒエン浜
 状 況: 波打ち際の砂浜の下を
 掘ると出てきた。



ハシカンボク

日 時: 08.7.4 11:55
 発見場所: 大和村
 状 況: この花は奄美の夏の終わり
 と秋の始まりを感じさせる。



クワズイモの花

日 時: 08.7.24 10:00
 発見場所: 住用町
 状 況: 割と日当たりのよい
 林道脇に生えていた。



キンチヨク

日 時: 08.10.19 16:15
 発見場所: 瀬戸内町
 状 況: 奄美大島では少なくなった
 サンゴの石垣の上に生えていた。マダ
 ガスカル原産。



アマミハナサキガエル

日 時: 08.7.21 10:30
 発見場所: 住用町
 状 況: 川の上のそばにまだ、
 オヤマジャクシの尾が残った幼体が
 いた。



セイトカアワダチソウ

日 時: 08.10.18 10:55
 発見場所: 住用町
 状 況: 県道の法面にススキに混じて咲いていた。
 北米が原産の外来植物。根から他の植物を枯らす物質を出す。



ノシラン

日 時: 08.8.12 15:00
 発見場所: 宇検村
 状 況: ユリの仲間。樹木の
 根元でひっそりと花を咲かせて
 いた。



フトモモ

日 時: 08.7.27
 発見場所: 住用町
 状 況: 川沿いでたくさんの実が
 なっていた。甘くシャリシャリした
 食感の実だった。



ヌマダイコン

日 時: 08.10.2
 発見場所: 瀬戸内町
 状 況: 林道のあちこちで白い花を
 咲かせていた。種子は粘液を出して動
 物の体にくっつくようになっている。

★ センター周辺の情報



クロマダラソテツジミ

日 時: 08.8.21 14:00
 発見場所: センター周辺
 状 況: センターの職員駐車場にあるソテ
 ツの葉にぎいていた。十数羽が乱舞していた。

0 4.5 9 18 km



秋に見られる野生の動植物

リュウキュウスズカケ【ゴマノハグサ科 絶滅危惧 I A類】

暖地の山地林内の岩場に生える多年草。茎は基部から分枝して、地上を這い、長さ30～100cmに達する。本種は一時期、絶滅したと考えられたが、調査の結果、奄美大島では今でも自生地が存在することがわかった。
分布：奄美大島（北限）、喜界島、沖縄島
花期：9月～10月



ムラサキムカシヨモギ【キク科】

低地～山地の路傍に生える多年生草本。葉と茎に毛が生えている。小さな頭花が多数集まって散房状の円錐花序をつくる。小花は鮮紫色で各頭花に20個くらいある。
分布：九州南部以南
花期：10月～1月



アリモリソウ【キツネノマゴ科】

山地の薄暗いやや湿った林内や林縁に生える多年生草本。茎の下部は地面に伏し、上部は斜上して高さ20～50cmになる。葉は対生し、葉柄は長さ3～13mm。花は長さ5～15cmの総状花序にまばらにつき、花冠は白色で内側には桃紅色の部分がある。
分布：屋久島・種子島以南
花期：10月～12月



ヘツカリンドウ【リンドウ科】

山地林内や薄暗い路傍斜面にはえる多年生草本。茎は花茎状で高さ30～60cmに達し、花が円錐花序にまばらにつく。様々な色や形の花がある。和名は大隅半島の辺塚で発見されたことによる。
分布：九州（大隅半島・甌島）屋久島・種子島以南
花期：10月～12月



ヤマヒヨドリバナとリュウキュウアサギマダラ

ヤマヒヨドリバナ【キク科】

低地～山地の路傍に生える多年生草本。高さが20～80cmに達する。

分布：四国・九州南部以南 花期：9月～11月

リュウキュウアサギマダラ【マダラチョウ科】

林内の風が弱く、細いつるが多くたれ下がっているような場所で、冬期に数十から数百の集団を形成して越冬する習性がある。

分布：奄美大島以南の琉球列島、台湾、東南アジアなど



セイタカシギ【シギ科 全長32cm 旅鳥】

名前の通り、細くて赤い足が非常に長く、スマートなシギである。くちばしは真っすぐで細くて黒い。春秋の渡りの時期に渡来する。

座っているほうがオス、立っているのがメス。2羽とも冬羽で、メスは背や翼にかっ色味がある。

鳴き声：ピューイッ ピューイッ など

生息時期：9月～12月～5月



カイツブリ【カイツブリ科 全長26cm 留鳥】

体は丸くて翼が短く、尾は非常に短い。冬羽は、上面がかっ色で下面は淡色である。夏羽は顔の下半分が赤かっ色をしている以外は体全体が黒かっ色。

奄美では河川や貯水池などで生息し少数が繁殖しているが、冬鳥として渡来するものの方が多い。

鳴き声：ケレレレレ、キリリリリ、ピッ ピッ など

生息時期：1月～12月



参考文献

琉球弧 野山の花 (南方新社 写真と文：片野田逸郎 監修：大野照良) 図鑑 奄美の野鳥 (奄美野鳥の会)

沖縄の蝶 (琉宮城 蝶々園 編著：具志堅猛) 奄美の絶滅危惧植物 (南方新社 著者：山下弘)

わきゃあまみ⑦ 奄美の花 100 (奄美自然体験活動推進協議会・奄美野生生物保護センター)

奄美野生生物保護センターからのお知らせ

マングース探索犬のご紹介！

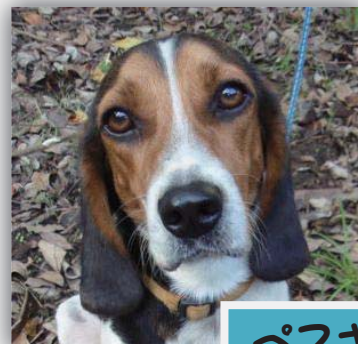
奄美大島のマングース防除事業では、マングース探索犬の導入が計画されています。



ラタ



タロ



ペスキー

犬種：フォックステリアとボーダーテリアのクロス※

年齢：1歳 性別：オス

出身地：ニュージーランド

名前の由来：赤い花をつけるニュージーランド固有の樹木。顔が赤っぽいところから名づけられた。

好きなもの：マングース。泳ぐこと。

性格：独占欲が強い。神経が細い。

犬種：ラタと兄弟

年齢：1歳 性別：オス

出身地：ニュージーランド

名前の由来：黒いチョコボールのような実をつける樹木。顔が黒っぽいところから名づけられた。

好きなもの：マングース。泳ぐこと。音がるボール。

性格：お人好し。神経が図太い。

犬種：ビーグル

年齢：1歳3か月 性別：オス

出身地：奄美大島

名前の由来：絵本に出てくる主人公（犬）の名前からとった。

好きなもの：マングース。イノシシの匂い。

性格：フレンドリー。神経が図太い。

マングース防除事業が進んでいく中、マングースの生息密度が低くなり、わなでの捕獲が難しくなっている現在、事業は次の段階へと進みました。捕獲効率を高めるために、マングース探索犬を使った捕獲作業が行われます。探索犬は、マングースを狩る狩猟犬としてではなく、マングースのフン・痕跡を見つけ、それをハンドラーに教える役目を果たします。

今年の9月に服従訓練が終わり、現在の訓練状況はターゲットトレーニングと忌避訓練を行っています。ターゲットトレーニングとはマングースのフン・痕跡を探索させるトレーニング。忌避訓練はマングース以外の動物、アマミノクロウサギ・アマミトゲネズミ・ハブなどに近づけさせない訓練です。

ハンドラー



山下さん

野中さん

野崎さん

実動の開始予定は来年の春。今後、探索犬がマングース根絶のために大きな役割を果たすことになるでしょう。この3頭に大きな期待がかかります。

※クロスとは・・・

異なる純血種同士を計画的に交配させた犬

センターと協議会からの活動報告

夏の特別企画展

「アマミノクロウサギの今 ～調査と保護の現場から～」

趣旨：アマミノクロウサギの一般によく知られた特徴や生態に加え、近年わかってきた生息状況や彼らを取り巻く現状について、調査や研究結果をもとに紹介しました。

〈企画展〉 日時：8月10日（日）～9月14日（日）

場 所：奄美野生生物保護センター 入館者数：81名

〈あまみエフエム〉「ナキャワキャ島自慢」のコーナーにて、9月29日～10月4日に放送されました。



【訂正のお知らせ】

通巻33号（夏号）で「蚊」に吸われているヒメハブを紹介しましたが、蚊の研究をしておられる、琉球大学の宮城名誉教授から、「ヒメハブに静止している昆虫は蚊でなく、多分サシチョウバエ *Sergentomyia* の1種だと思います。この属は冷血動物を吸血する種が、とくに中南米で記録されています。沖縄のヒメハブにはこの昆虫は見られません。多分、新種でしょう。」という、ご連絡をいただきました。新種かもしれないとは驚きです。奄美の自然はまだまだこれから、様々な研究者の方によって解ってくることが多いのでしょうか。奄美の自然は奥深いですね！

33号で紹介した写真



アップ



編集後記

慣れとは怖いものです。奄美に暮らし始めて約2年。奄美の気候に体が慣れ、朝晩の冷えに耐えられず、11月に入っていないのに毛布を出してしまいました。真冬をどうやって過ごそうか、思案中です。気温がぐっと下がり、体調を崩しやすくなります。みなさま、どうぞ体には気をつけて下さい。